

# 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における 自立活動に関する研究（1年次／2年）

—特別支援学級の自立活動に関する実態調査及び好事例の集積—

大分県教育センター特別支援教育部  
指導主事 財津 誠一

## I 調査研究の背景と目的

全国及び大分県における小・中学校の特別支援学級数と児童生徒数は、平成30年と令和5年を比較すると（表1・表2）、ともに大きく増加している。このことから、特別支援学級のニーズが高まり、指導の充実が求められている。

しかし、文部科学省の「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」（令和4年4月27日付）によると、特別支援学級において、「特別の教育課程を編成しているにもかかわらず、自立活動の時間が設けられていない」、「個々の児童生徒の状況を踏まえずに、一途中略」機械的かつ画一的な教育課程の編成が行われている等の指摘がなされ、本県においても同様の事例が散見されている。

他方、令和4年度本センターの「小・中学校通級指導教室における指導の実態と課題に関する調査研究」において、大分県の通級による指導の教室（以下通級指導教室とする）担当者は、担当経験年数3年未満が大半を占め（図1）、特別支援学校教諭免許状の所有者は30%と低かった（図2）。にもかかわらず、通級指導教室には多様な障がい種の児童生徒が通い、授業形態は個別の指導に加えて、グループ別や合同でも行っていた。よって、通級指導教室担当者には、児童生徒一人一人の学習上及び生活上の困難に対する自立活動の指導を、個別または複数の児童生徒同時に指導する等、高い専門性が求められている。

特別支援学級、通級指導教室のいずれにおいても学校教育法施行規則第138条、第140条により特別の教育課程が編成され、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領により自立活動の指導が規定され、児童生徒一人一人の障がいの状態に応じた指導の充実が求められている。そこで、本研究では、小・中

表1 全国の特別支援学級の学級数及び児童生徒数

		平成30年	令和5年
小学校	学級数(学級)	41,864	53,267
	児童数(人)	167,269	250,335
中学校	学級数(学級)	18,326	22,670
	生徒数(人)	68,218	99,812

文部科学統計要覧

表2 大分県の特別支援学級の学級数及び児童生徒数

		平成30年	令和5年
小・中学校	学級数(学級)	562	793
	児童生徒数(人)	2,135	4,034

特別支援教育課調べ

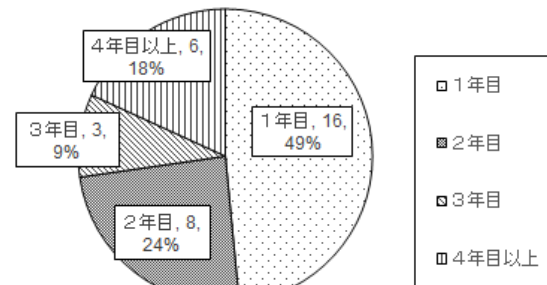


図1 通級指導教室担当の経験年数 (n=33)

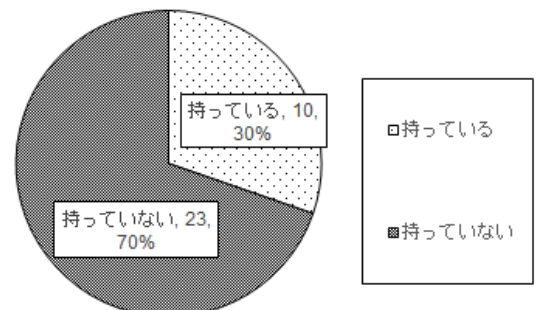


図2 通級指導教室担当の特別支援学校教諭免許状の所有状況 (n=33)

学校特別支援学級の自立活動に関する実態調査を行い、特別支援学級の自立活動の実態や担任の悩み、課題等について調査すると共に、小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する好事例を集積しホームページで周知することを目的とする。

## Ⅱ 調査研究の方法

### 1 小・中学校特別支援学級の自立活動に関する実態調査

#### 1-1 調査方法及び対象

「小・中学校特別支援学級の自立活動に関するアンケート調査」を、県内（大分市は中核市であるために除く）小・中学校の全特別支援学級担任 431 人を対象に実施する。

#### 1-2 調査期間

令和5年7月19日～9月12日

#### 1-3 調査手順

県内の各市町村教育委員会（大分市を除く）に、特別支援学級担任の回答者名簿の作成を依頼し、その回答者名簿を基に、回答者の OEN メールアドレスに Google フォームを利用して、アンケートを送付、回収を行う。

#### 1-4 調査内容

- ・特別支援学級担任の経験年数、特別支援学校教諭免許状の所有状況等
- ・特別支援学級の種類、在籍児童生徒数、児童生徒の主たる障がい
- ・自立活動の授業時数、目標や内容の設定、実態把握の方法、授業形態等〔実態把握の方法については、「よくしている」（4点）～「していない」（1点）の4件法を用い、得られた得点を点数化した。〕
- ・自立活動の指導上の課題や困難、工夫等〔課題や困難については「とても感じている」（4点）～「全く感じない」（1点）の4件法を用い、得られた得点を点数化したものと、課題や困難の内容を自由に記述するものの二つの質問を用意した。〕

### 2 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する好事例

#### 2-1 好事例の収集方法及び対象

特別支援学級担当教員研修及び通級指導教室担当教員研修の受講者を対象に、第2回の研修時に各自が発表した自立活動の実践事例の中から、優れたものを事例集にまとめる。

## Ⅲ 結果及び考察

### 1 小・中学校特別支援学級の自立活動に関する実態調査

アンケート調査の回収率は、431人に送付し回答が420人よりあり、回収率は97.4%であった。今回の調査で、大分県における小・中学校特別支援学級の自立活動に関する実態の一端を明らかにすることができたと考える。そこで、主な調査項目ごとに結果をまとめ考察を行う。

#### 1-1 特別支援学級の担任

特別支援学級担任の経験年数は1年目が27%で最も多く、1～3年目で半数を越えた（図3）。ま

小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する研究

た、通級指導教室担当や特別支援学校勤務の経験が共にない教員は 66.7%であり（資料表 3）、特別支援学校教諭免許状の所有者は半数に満たなかった（図 4）。これらのことから、特別支援学級担任の特別支援教育に関する専門性の確保が危惧される。

1-2 特別支援学級在籍の児童生徒

特別支援学級の 1 学級当たりの児童生徒数は、5 人が 78 学級（18.6%）と最も多く、次いで 4 人が 72 学級（17.1%）、6 人が 66 学級（15.7%）であり、1 学級当たりの児童生徒数の平均は 4.3 人であった（表 3）。また、特別支援学級の種別にかかわらず、他の障がいの児童生徒も在籍していることが分かった（資料表 7）。知的障がい特別支援学級には、言語障がいや弱視、難聴等を併せ有する児童生徒が、自閉症・情緒障がい特別支援学級には知的障がいや言語障がい、弱視等を併せ有する児童生徒が在籍している場合もあり、特別支援学級担任には、様々な障がいに関する知識や実践が求められている。

1-3 自立活動の目標・内容、評価、実態把握

個別の指導計画に、自立活動の目標や評価を記入しているかについては、児童生徒全員分の目標や評価を記入している学級の割合は 82.6%であり、多くの学級で自立活動の目標や評価が個別の指導計画に記入されていた（資料表 9）。

また、実態把握の方法は、「学校での様子を観察する」「交流学級の担任等、他の教職員から聞き取る」「保護者から聞き取る」「前年度担当者からの引継ぎ資料を読んだり、前年度担当者から直接聞き取ったりする」において「よくしている」「している」の回答が多く（得点の平均 3.4~3.7）、多様な方法で実態把握が行われていることが明らかになった（資料表 11・12）。自立活動の指導において、実態把握の重要性が広く認識され、多面的に実態を把握していることが推察された。

さらには、児童生徒一人一人に設定している自立活動の指導内容について、特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動の 6 区分のどれと関連付けて指導しているかは、全体として「心理的な安定」（83.3%）、「人間関係の形成」（83.1%）、「コミュニケーション」（87.9%）と回答した割合が高かったが、他の区分の回答の割合も低くはなかった（資料表 13）。学級種別に関わらず児童生徒一人一人に応じた指導内容が検討されていることが伺えた。

一方、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の「流れ図」を作成している教員は 6.0%、「流れ図」を参考に目標等を設定しているのは 38.8%と、合わせても 44.8%で低かった（資料表 10）。小学校学習指導要領解説【総則編】においては、個別の指導計画作成の手順の一例が示され、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編を参照することが述べられている。児童生徒一人一人の学習上及び生活

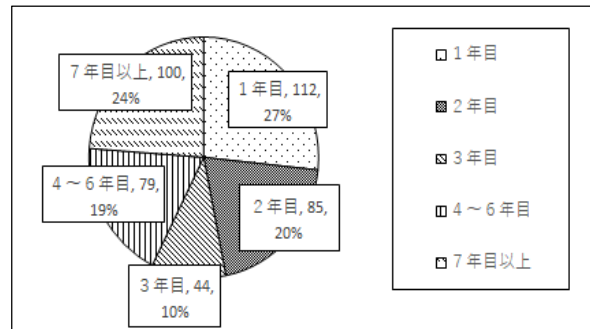


図 3 特別支援学級担任の経験年数 (n=420)

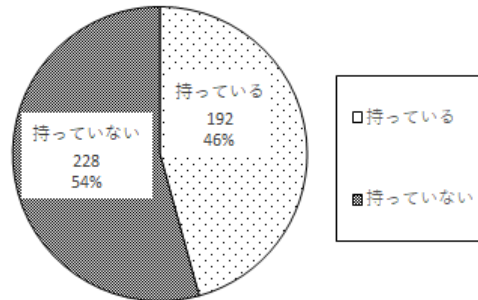


図 4 特別支援学級担任の特別支援学校教諭免許状の所有状況 (n=420)

表 3 1 学級当たりの児童生徒数ごとの学級数 (n=420)

児童生徒数	小学校	中学校	合計
1 人	26 学級	19 学級	45 学級(10.7%)
2 人	31 学級	11 学級	42 学級(10.0%)
3 人	37 学級	21 学級	58 学級(13.8%)
4 人	50 学級	22 学級	72 学級(17.1%)
5 人	58 学級	20 学級	78 学級(18.6%)
6 人	43 学級	23 学級	66 学級(15.7%)
7 人	29 学級	8 学級	37 学級(8.8%)
8 人	15 学級	7 学級	22 学級(5.2%)
1 学級の平均	4.4 人	4.1 人	4.3 人

上の困難に応じた実態把握や妥当性のある指導目標・内容を設定するためにも、また、設定した目標・内容の根拠を示すためにも「流れ図」の活用を促す必要がある。

1-4 自立活動の授業形態

自立活動の授業形態は、「個別に指導を行っている」が 88.8%、「小グループによる指導を行っている」が 66.9%、「児童生徒全員の合同による指導を行っている」が 63.3%であった（資料表 14）。複数の授業形態で行われていることが分かった。ただ、小グループや合同で授業を行う際には、一人一人の目標・内容が異なる場合、1時間の授業の中を、「同一教材異内容」で指導する技術や、課題別に分けられた児童生徒を効率よく指導する「わたりの指導」の技術が、特別支援学級担任に必要なのである。

1-5 自立活動の指導における課題や困難

自立活動の指導における課題や困難について、項目ごとに全体と学級の児童生徒数別（1-2人学級、3-5人学級、6-8人学級）の回答数を資料表 15 にまとめた。そして、「とても感じている」（4点）～「全く感じていない」（1点）で点数化し全体及び学級の児童生徒数別に平均点を、資料図 1 に表した。全体の平均点は「児童生徒が複数いる時の指導が難しい」が 3.33、次いで「教材の設定や授業の展開等授業を構想することが難しい」が 3.25、そして「目標や具体的な指導内容の設定が難しい」が 3.10、「目標の評価が難しい」が 3.01、「学校の教育活動全体を通じて指導することが難しい」が 2.95 と続いた。

また、特別支援学級の児童生徒数について、1-2人学級、3-5人学級、6-8人学級に分けて、一要因分散分析を行った（表 4）。その結果、「児童生徒の実態把握が難しい」「教育活動全体を通じて指導することが難しい」「授業場面の学習が、日常生活に生かされにくい」「相談できる人がいない」については、3-5人学級や6-8人学級の方が、1-2学級よりも有意に得点が高かった。「目標や具体的な指導内容の設定が難しい」「教材の設定や授業の展開等授業を構想することが難しい」については、6-8人学級の方が、1-2学級よりも有意に得点が高かった。「児童生徒が複数いる時の指導が難しい」については、6-8人学級の方が3-5人学級よりも、3-5人学級の方が1-2学級

表 4 特別支援学級の児童生徒数別の自立活動の指導における課題や困難の平均点と一要因分散分析結果  
（とても感じている：4点、感じている：3点、あまり感じていない：2点、感じていない：1点）

自立活動の指導における課題や困難	1-2人学級 (87人)	3-5人学級 (208人)	6-8人学級 (125人)	F値	多重比較
児童生徒の実態把握が難しい	2.61	2.82	2.89	4.50 *	1-2人学級<3-5人学級, 6-8人学級
目標や具体的な指導内容の設定が難しい	2.94	3.13	3.16	3.35 *	1-2人学級<6-8人学級
目標の評価が難しい	2.87	3.04	3.06	2.40	
教材の設定や授業の展開等授業を構想することが難しい	3.11	3.23	3.38	4.65 **	1-2人学級<6-8人学級
児童生徒が複数いる時の指導が難しい	2.52	3.43	3.73	76.73 **	1-2人学級<3-5人学級<6-8人学級
教育活動全体を通じて指導することが難しい	2.56	2.99	3.16	20.68 **	1-2人学級<3-5人学級, 6-8人学級
授業場面の学習が、日常生活に生かされにくい	2.66	2.94	3.06	8.47 **	1-2人学級<3-5人学級, 6-8人学級
相談できる人がいない	2.07	2.38	2.38	5.14 **	1-2人学級<3-5人学級, 6-8人学級

\*は p<0.05 で有意差有り、\*\*は p<0.01 で有意差有り

## 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する研究

よりも有意に得点が高かった。

自由記述の回答からは、「在籍児童は2年から6年までの5学年に渡っており、実態も大きく違う。一人では指導が難しく、指導方法や内容に日々苦慮している。」「目標設定が非常に難しいと感じている。自立活動の大まかな概要は分かるが、項目の関連付けをして指導内容を決定することが難しい。」「個々の課題や困難さを把握することはできるものの、それをどんな手段を用いて解決していけばよいか判然としない。」「個々の児童の実態に合った教材の設定や授業の展開等の授業構成で悩んでいる。」「生徒の実態把握と効果的な指導方法が難しい。」等の意見が寄せられた。

特別支援学級担任は、様々な課題や困難を感じながら自立活動の指導に当たっており、更に児童生徒数が多い場合は困難を抱えやすく、参考となる解決策や実践例の提供が求められていると言える。

### 2 小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動に関する好事例

別紙「小・中学校の特別支援学級及び通級指導教室における自立活動の実践事例集」に、特別支援学級の11事例、通級指導教室の4事例を好事例としてまとめた。これらの事例は、児童生徒一人一人の学習上及び生活上の困難に対して目標・内容を設定し、児童生徒が主体的に取り組める、指導が段階的である、学習が生活に生かされる等の工夫が見られた。

## IV 成果と課題

小・中学校特別支援学級の自立活動に関する実態調査を通して、次のことが明らかになった。特別支援学級担任は、1年目が27%で最も多く、1～3年目で半数を越えた。加えて、特別支援学校教諭免許状の所有者は半数に満たず、専門性の確保が危惧された。また、特別支援学級の種別に関わらず、他の障がいもある児童生徒が在籍し、児童生徒数は平均4.3人であり、6人以上の学級が29.7%であった。特別支援学級担任は、様々な障がいに関する知識や多人数を同時に指導する高い専門性が求められている。一方、自立活動の目標や評価は82.6%の学級で個別の指導計画に記入され、実態把握は観察や他の教職員・保護者への聞き取り等、多様な方法で行っていた。ただ、目標・内容設定時の「流れ図」の作成は6%、参考にしているのは38.8%と低く、より一層の「流れ図」の活用を促す必要がある。自立活動の指導において課題や困難と感ずることについては、「児童生徒が複数いる時の指導が難しい」「教材の設定や授業の展開等授業を構想することが難しい」が全体の中で特に高く、また、在籍児童生徒数が多くなると、それらに加え、実態把握や教育活動全体を通じた指導、相談相手がいない等、多方面に困難を抱えていた。

本調査で明らかになった自立活動の指導における課題や困難に対して、その解決策を示したQ&A形式のハンドブックを、次年度作成する予定である。いかに有効な解決策を示せるかが課題である。

## 附記

今回の調査研究にご協力いただいた県内の市町村教育委員会、小・中学校の特別支援学級担任の皆様は心より感謝申し上げます。また、大分大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コースの古長治基講師より、アンケート調査の作成や分析に当たり指導助言を賜った。記して謝意を表す。

## V 参考文献

青森県総合学校教育センター 2020 青森県内における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査報告

## 資料 小・中学校特別支援学級の自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

### 1 回収状況

調査対象者数 431 人の内、420 人から回答が得られ、回収率は 97.4%であった。

### 2 回答者の状況

(問 2) 学校種をお選びください。

表1 所属校別の人数(n=420)

年数	人数(人)	割合(%)
小学校	289	68.8
中学校	131	31.2

(問 3) 特別支援学級担任の経験年数(前任校含む通算の年数)をお答えください。

表2 特別支援学級担任の経験年数別の人数(n=420)

年数	人数(人)	割合(%)
1年目	112	26.7
2年目	85	20.2
3年目	44	10.5
4～6年目	79	18.8
7年目以上	100	23.8

(問 4) これまでに通級指導教室担当や特別支援学校に勤務の経験がありますか。

表3 特別支援学級担任や特別支援学校での勤務経験の状況(複数回答可:n=420)

		特別支援学校勤務の経験				計	
		あり		なし			
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
通級指導教室 担当の経験	あり	13	3.1	35	8.3	48	11.4
	なし	92	21.9	280	66.7	372	88.6
計		105	25.0	315	75.0	420	100.0

(問 5) 特別支援学校教諭免許状は所有していますか。

表4 特別支援学校教諭免許状の所有状況(n=420)

特別支援学校教諭免許状の所有状況	人数(人)	割合(%)
特別支援学校教諭免許状を持っている	192	45.7
特別支援学校教諭免許状を持っていない	228	54.3

【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

### 3 特別支援学級の状況

(問6) 特別支援学級の種類をお選びください。

表5 特別支援学級の種類 (n=420)

種類	小学校 (割合%)	中学校 (割合%)	合計 (割合%)
知的障がい特別支援学級	173 (59.9)	70 (53.4)	243 (57.9)
自閉症・情緒障がい特別支援学級	110 (38.1)	57 (43.5)	167 (39.8)
肢体不自由特別支援学級	2 (0.7)	2 (1.5)	4 (1.0)
病弱・身体虚弱特別支援学級	2 (0.7)	2 (1.5)	4 (1.0)
言語障がい特別支援学級	2 (0.7)	0 (0.0)	2 (0.5)
合計	289 (100.0)	131 (100.0)	420 (100.0)

(問7) 担任している特別支援学級に在籍している児童生徒の人数をお答えください。

表6 特別支援学級の児童生徒数(n=420)

児童生徒数	小学校 (割合%)	中学校 (割合%)	合計 (割合%)
1人	26学級 (9.0)	19学級 (14.5)	45学級 (10.7)
2人	31学級 (10.7)	11学級 (8.4)	42学級 (10.0)
3人	37学級 (12.8)	21学級 (16.0)	58学級 (13.8)
4人	50学級 (17.3)	22学級 (16.8)	72学級 (17.1)
5人	58学級 (20.1)	20学級 (15.3)	78学級 (18.6)
6人	43学級 (14.9)	23学級 (17.6)	66学級 (15.7)
7人	29学級 (10.0)	8学級 (6.1)	37学級 (8.8)
8人	15学級 (5.2)	7学級 (5.3)	22学級 (5.2)
合計	289学級 (100)	131学級 (100)	420学級 (100)
平均の児童生徒数	4.4人	4.1人	4.3人

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

(問8) 特別支援学級に在籍している児童生徒の主たる障がいをお答えください。

 表7 在籍している児童生徒の主たる障がいごとの特別支援学級数(複数回答可:n=420)  
 (知的:知的障がい特別支援学級、自情:自閉症・情緒障がい特別支援学級、肢体:肢体不自由特別支援学級、虚弱:病弱・身体虚弱特別支援学級、言語:言語障がい特別支援学級)

児童生徒の主たる障がい	知的 n=243	自情 n=167	肢体 n=4	虚弱 n=4	言語 n=2	合計 n=420
知的障がい(精神発達遅滞、知的能力障がい、知的発達症を含む)	235	20	2	0	0	257
自閉症スペクトラム障がい(自閉症、アスペルガー障がい、広汎性発達障がいを含む)	100	145	0	1	0	246
情緒障がい	29	88	0	1	0	118
言語障がい	14	3	1	0	2	20
肢体不自由	8	0	4	0	0	12
弱視	5	1	0	0	0	6
身体虚弱・病弱	3	0	0	3	0	6
難聴	3	0	0	0	0	3
注意欠陥多動性障がい(ADHD)[注意欠如・多動症を含む]	70	112	0	1	0	183
学習障がい(LD)[限局性学習症(SLD)を含む]	29	32	0	0	0	61

## 4 自立活動について

(問9) 一人当たりの自立活動の週の授業時間数をお選びください。

表8 児童生徒一人当たりの週の授業時数(複数回答可:n=420)

授業時数	回答数	割合(%)
0時間(教育活動全体の中で指導も含む)	15	3.6
0時間(教科等を合わせた指導の中で指導)	120	28.6
1時間未満	38	9.0
1時間	203	48.3
2時間	60	14.3
3時間	25	6.0
4時間	10	2.4
5時間以上	16	3.8



## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

(問10) 個別の指導計画に、自立活動の目標や評価の記入をしていますか。

表9 個別の指導計画への自立活動の目標や評価の記入状況(n=420)

記入状況	回答数(人)	割合(%)
児童生徒全員分の個別の指導計画に、自立活動の目標や評価の記入をしている	347	82.6
一部の児童生徒の個別の指導計画に、自立活動の目標や評価の記入をしている	28	6.7
個別の指導計画に、自立活動の目標や評価の記入はしていない	45	10.7
合計	420	100.0

(問11) 自立活動の目標や内容を設定する際、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に示されている、「流れ図」を作成または参考にしていますか。

表10 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の「流れ図」の作成・参考状況(n=420)

作成・参考状況	人数(人)	割合(%)
「流れ図」を作成している	25	6.0
「流れ図」を参考に目標等を設定している	163	38.8
「流れ図」は知っているが、参考にしていない	90	21.4
「流れ図」を見たことがない、よく分からない	128	30.5
自立活動の目標等は設定していない	14	3.3
合計	420	100.0

(問12) 自立活動の指導において、児童生徒の実態把握はどのように行っていますか。下記の項目ごとに「よくしている」から「していない」の4段階で選択してください。

表11 児童生徒の実態把握方法(n=420)

実態把握の方法	よくしている(人)	している(人)	あまりしていない(人)	していない(人)
学校での様子を観察する	314	103	2	1
交流学級の担任等、他の教職員から聞き取る	226	189	4	1
保護者から聞き取る	195	208	17	0
前年度担当者からの引継ぎ資料を読んだり、前年度担当者から直接聞き取ったりする	197	204	12	7
医療機関や福祉機関等の関係機関と情報交換をしたり、様子を見学したりする	73	197	115	35

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

表 12 児童生徒の実態把握方法別の平均点

(よくしている：4点、している：3点、あまりしていない：2点、していない：1点)

実態把握の方法	平均点
学校での様子を観察する	3.7
交流学級の担任等、他の教職員から聞き取る	3.5
保護者から聞き取る	3.4
前年度担当者からの引継ぎ資料を読んだり、前年度担当者から直接聞き取ったりする	3.4
医療機関や福祉機関等の関係機関と情報交換をしたり、様子を見学したりする	2.7

(問13) 児童生徒一人一人に設定している自立活動の指導内容について、6区分のどれを関連付けて(意識して)、指導していますか。複数の児童生徒がいて、それぞれで異なる場合は、該当するもの全てにチェックをつけてください。

表 13 自立活動の指導内容における、学級種別ごとの関連付けている区分(複数回答可)

学級種別		1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション	関連付けて(意識して)いる区分は分からない
知的障がい n=243	人数(人)	93	194	204	100	112	223	3
	割合(%)	38.3	79.8	84.0	41.2	46.1	91.8	1.2
自閉症・情緒障がい n=167	人数(人)	57	152	140	63	62	137	5
	割合(%)	34.1	91.0	83.8	37.7	37.1	82.0	3.0
肢体不自由 n=4	人数(人)	2	2	2	2	3	4	0
	割合(%)	50	50	50	50	75	100	0
病弱・身体虚弱 n=4	人数(人)	4	1	2	1	1	3	1
	割合(%)	100	25	50	25	25	75	25
言語障がい n=2	人数(人)	2	1	1	0	0	2	0
	割合(%)	100	50	50	0	0	100	0
計 n=420	人数(人)	158	350	349	166	178	369	9
	割合(%)	37.6	83.3	83.1	39.5	42.4	87.9	2.1

(問14) 自立活動の授業形態はどのようにしていますか。下記の項目ごとに、「行っている」又は「行っていない」を選択してください。

表 14 自立活動の授業形態(複数回答可:n=420)

授業形態	行っている		行っていない	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
個別に指導を行っている(複数人いる中で個人別に教材を用意し指導する形態を含む)	373	88.8	47	11.2
小グループによる指導を行っている[グループごとに同じ教材(単元・題材)で学習する]	281	66.9	139	33.1
特別支援学級の児童生徒全員の合同による指導を行っている[全員、同じ教材(単元・題材)で学習する]	266	63.3	154	36.7

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

(問15) 自立活動の指導において、課題である、難しいと感じていることは何ですか。下記の項目ごとに「とても感じている」から「全く感じていない」の4段階で選択してください。

表15 特別支援学級の児童生徒数別の自立活動の指導における課題や困難

(1~2人学級:n=87、3~5人学級:n=208、6~8人学級:n=125、全体:n=420)

自立活動の指導における課題や困難	学級の児童生徒数	とても感じている(人)	感じている(人)	あまり感じていない(人)	全く感じていない(人)
児童生徒の実態把握が難しい	1-2人学級	10	38	34	5
	3-5人学級	26	119	62	1
	6-8人学級	21	71	31	2
	全体(合計)	57	228	127	8
目標や具体的な指導内容の設定が難しい	1-2人学級	20	45	19	3
	3-5人学級	56	124	28	0
	6-8人学級	34	78	12	1
	全体(合計)	110	247	59	4
目標の評価が難しい	1-2人学級	18	42	25	2
	3-5人学級	46	124	38	0
	6-8人学級	31	71	23	0
	全体(合計)	95	237	86	2
教材の設定や授業の展開等授業を構想することが難しい	1-2人学級	26	45	16	0
	3-5人学級	75	106	27	0
	6-8人学級	55	63	7	0
	全体(合計)	156	214	50	0
児童生徒が複数いる時の指導が難しい	1-2人学級	14	35	20	18
	3-5人学級	110	78	19	1
	6-8人学級	96	24	5	0
	全体(合計)	220	137	44	19
学校の教育活動全体を通じて指導することが難しい	1-2人学級	5	45	31	6
	3-5人学級	42	125	38	3
	6-8人学級	38	70	16	1
	全体(合計)	85	240	85	10
授業場面の学習が、日常生活に生かされにくい(生活への般化が難しい)	1-2人学級	9	42	33	3
	3-5人学級	45	107	54	2
	6-8人学級	32	69	23	1
	全体(合計)	86	218	110	6
相談できる人がいない	1-2人学級	5	16	46	20
	3-5人学級	21	63	99	25
	6-8人学級	10	44	55	16
	全体(合計)	36	123	200	61

【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

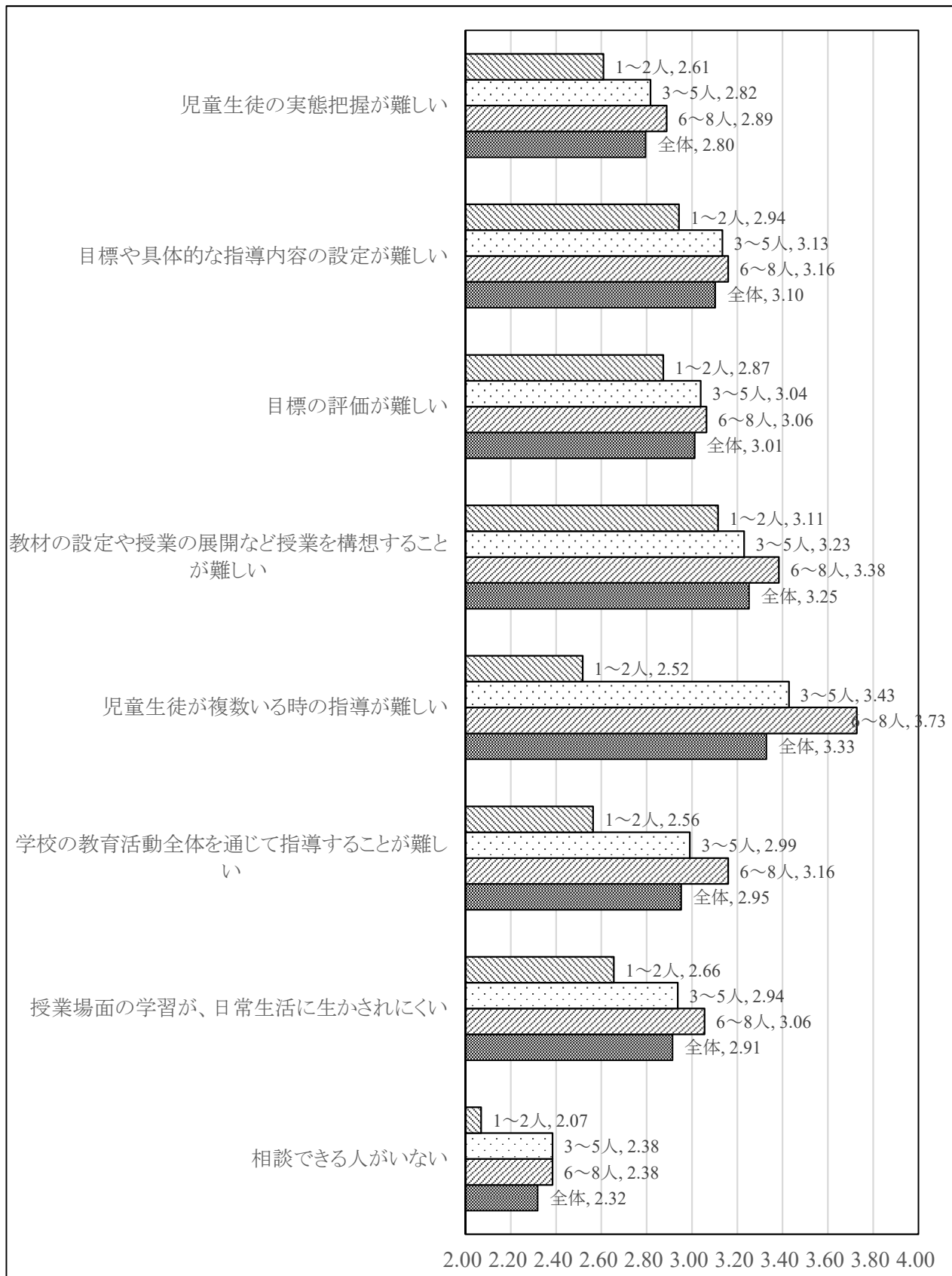


図1 特別支援学級の児童生徒数別(1～2人学級、3～5人学級、6～8人学級)と全体の自立活動の指導における課題や困難の平均点(1～2人学級:n=87、3～5人学級:n=208、6～8人学級:n=125、全体:n=420)  
(とても感じている:4点、感じている:3点、あまり感じていない:2点、感じていない:1点)

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

(問17) 自立活動の指導を充実させるにあたり、工夫していること、大事にしていること等ありましたら、お書きください。(自由記述)

表 16 自立活動の指導上の工夫点(自由記述、原文のまま掲載)(n=420)

項目	記述内容
目標・内容の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルスキルを身につけること。楽しみながらできること。</li> <li>・学期ごとに大まかな目標のもと取り組んでいること。</li> <li>・子ども一人一人の実態に即した内容を工夫すること。</li> <li>・コミュニケーション力の向上。</li> <li>・個に応じた内容設定。</li> <li>・子どもの困りを解消するサポートを大事にしている。</li> <li>・子どもの特性やできることできないこと等、実態をしっかりと把握してその子どもにどんな力を付けていく必要があるかを考え、日々指導を臨機応変に対応していくことを意識しています。</li> <li>・指導区分の六項目を常に考えながら、活動を組み立てている。</li> <li>・流れ図の作成。</li> <li>・その活動によってどんな力をつけたいかを考えるようにする。</li> <li>・現在、そして将来にわたって、生活していくときに大切なこと、あるいは身につけておけば生活しやすくなるのでは、と思われることを考えながら、指導内容を考えています。</li> <li>・子どもの実態と、こちらの目標がずれないこと。粘り強く行うこと。</li> <li>・将来必要だと思われる力をつけること。</li> <li>・コミュニケーションや人間関係の形成を主に扱っています。遊びやゲーム等友達とかかわる経験を積み重ねながらルールを守ることの必要性や大切さを教えています。</li> <li>・その都度必要と思われる項目を取り扱うようにする。</li> <li>・児童が将来的に社会で周りの人たちと一緒に暮らしていけるように考えている。</li> <li>・児童ができる様になりたいことがあれば、取り入れながら自立活動を設定するようにしている。</li> <li>・学校生活、家庭生活、家族、周りの支援をしてくださる方々から聞き取りをして個に応じて困りごとに対応できるよう授業の内容等工夫している。困り事を見つけたら、改善できるよう授業や支援内容を考えるようにしている。先輩の特別支援学級の先生に相談、支援学校へ見学、相談。ネットで調べる等。</li> <li>・優先順位をつけ、どこに力を入れて指導するかを考えて取り組んでいます。また、自立活動の時間だけではなく、学校生活全般で指導することが大事だと思います。</li> <li>・進路保障につながる「自立支援」の進め方。</li> <li>・児童の困りを少しでも軽減できそうなものを取り入れられるといいなと考えていますが、道は遙か遠いという感じです。</li> <li>・複数で、コミュニケーションに関わる活動を重点的にしている。</li> <li>・集団の中で過ごす上で必要になる力、今後の進路に向けて必要になると考えられる力を付けていくこと。</li> <li>・何の力をつけたいのかを明確にしておくことを大事にしています。</li> <li>・授業内容が子どもの実態に即しているかよく考える。</li> <li>・その子どもの実態に合わせた内容を吟味し、その時間に来ている学年の子とのコミュニケーションもとやすくなるようにすること。</li> <li>・少しでも児童の困り、生きにくさが改善されたらという思いをもって指導を考えています。</li> <li>・他の項目と関連させて指導すること。</li> <li>・交流学級で難しかったことを、スモールステップで支援学級で学習している。</li> <li>・「この子を1年でどうさせたいか」を1つ絞って考えるようにしている。それが、自立活動の特に優先して指導すべき内容につながっている。</li> <li>・児童の実態に合った内容を設定すること。</li> </ul>
指導・支援の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しんで活動できるように。</li> <li>・その子の困りを軽減できるような活動をしたり、そのための指導支援の工夫をしたりしたいと考えている。</li> <li>・日々の生活のトラブル・困り等を振り返れるような授業・指導をしている。</li> <li>・ゲーム形式にしたり、それぞれの児童が活躍できる場を設定したりしている。</li> <li>・映像を使った授業。</li> <li>・内容は同じことだけど、飽きないように繰り返し行えるようにすること。</li> </ul>

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数だからこそできる活動。</li> <li>・授業の中で適切なコミュニケーションがとれるように工夫をしている。</li> <li>・限られた時間の中で効率的に活動ができるようにしている。</li> <li>・継続して行い、成果の向上を感じさせたり、慣れているもので勉強のリズムを作ったりする。</li> <li>・児童の実態に合った教育活動になるように考えている。</li> <li>・楽しく参加できるような雰囲気づくりをしている。</li> <li>・視聴覚教材・実物教材・ICTの活用、サイコロジゲーム（すごろくトーキング）による自己表出の機会の定期的確保。</li> <li>・複数学年で、自立活動をする時は事前に知らせておいて、活動にスムーズに入れるようにする。また楽しんで行えるような内容にする。</li> <li>・トラブルがあった時等は児童の意見や考えをまず受け止めてから指導する。意見や考えを文字に起こして記録して整理する。</li> <li>・困難の改善・克服に努めているが、もっとできていることを伝えながら自己肯定感が下がらないように指導を心がけている。</li> <li>・特別支援学級の児童全員で、役割分担をしながら行える内容を考えている。</li> <li>・楽しく活動できるように心がけている。</li> <li>・「特別支援学級在籍児童が、将来必要になるであろう。」と考えられる活動を意識しながら取り組むように心がけています。</li> <li>・児童が心理的に安定して過ごせるよう支援している。</li> <li>・支援学級がいつもほっとする場であることを心がけている。</li> <li>・情緒の安定を図ること。</li> <li>・少しでも心理的に安定できるような言葉かけを意識している。</li> <li>・継続的な指導。</li> <li>・継続が可能な形で行っていきたいと思っている。</li> <li>・自立活動の時間だけでなく、日常的に朝の時間や休み時間等を使って指導している。</li> <li>・1時間フルに設定できなかつたり行事等で確保できなかつたりすることもあるので、隙間時間を見つけてながら取り組んでいる。</li> <li>・同じ活動でも目的を変えて取り組んでいる。</li> <li>・個人の学びと全体での学びの場が保障できるように工夫している。</li> <li>・子どもと子どもをつなぐ活動にすることと、学んだことが実生活や教科の学習でも活かせる内容であること、子ども自身が興味を持って取り組める内容かを吟味して行っている。持ち上がりの今年度は計画が立てやすかったが、初めてきた年はアセスメントに苦労した。個別の支援計画等引き継ぎにうまく使えるとよいが、教師によって授業スタイルも違うので3分間で何文字書き取りができるとか、掛け算九九はどれぐらい正答できるのか等、数値による評価と引継ぎがあるとわかりやすいと考える。また、療育に通う子どもは療育で取り組んでいる内容を参考に自立活動を計画することでより効果がでると考えている。保護者と関係機関との連携ができるとよいと思う。</li> <li>・教師の困りではなく児童の困りを把握すること、できそう・おもしろそう・やってみようかなと思ってもらえる量や内容の課題にすること、目標は大きく望みすぎない、スモールステップの目標設定にし、必ず達成感をもてるようにすること、大袈裟過ぎるくらい喜んだり誉めたりすること、また、その日の達成できたことや取り組みの頑張りを保護者にも連絡帳で共有し、家庭でも誉めてもらうこと、頑張って良かったという達成感を次の意欲に繋げること等です。</li> <li>・指導が一度にできないので、子どもたちが自分で取り組めるよう、教室の構造化をしたり、教材の並べ方を工夫したりして、取り組みやすくしている。</li> <li>・自分たちで育てた野菜を調理に生かし、楽しみや喜びを味わわせている。</li> <li>・コミュニケーション等を課題にしている場合、なるべく同じ活動で目標を変えるようにしています。</li> <li>・本人の持っている可能性を教師が先回りして奪わないようにする。</li> <li>・楽しいだけの内容にならないようにすること。</li> <li>・実態に合わせて、心の安定につながり、実践へ活かせるように心がけている。</li> <li>・楽しく力がつく授業づくり。</li> <li>・子どもたちが楽しく活動できることです。</li> <li>・自分の困りを、本人がより深刻にとらえないように、様々な手立てを創意工夫して、児童本人が日常的に新鮮な気持ちで取り組めるように配慮している。</li> <li>・めあてとなることを、いつでも意識出来るよう、またその良い評価を生徒に伝えられるよう可視化し</li> </ul>
---

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがわかりやすく楽しいと思えるような活動をできる限り仕組んでいくように心がけている。</li> <li>・より効果的な方法を常に模索すること・効果的な言葉かけ・連携と共通理解。</li> <li>・全員で共通で取り組む課題、個別で取り組む課題に分けている。日常の中で、自立活動の課題を入れ込むようにしている。めあてや課題を交流担任と保護者、関係機関に伝えて、それぞれの場面の様子を聞いて評価するようにしている。</li> <li>・できる場面で少しでもできることを継続し、少しずつ向上させる。</li> <li>・低学年は苦手なことや経験が少ないことを中心に学習活動を考え、高学年の児童にはコミュニケーション力や自信をつけられるような活動を取り入れるようにしています。</li> <li>・雰囲気。</li> <li>・不適切行動の意味を考え、どの様にアプローチすればよいか考えるようにしている。うまく思いが伝えられない中、何を考え、どうしてほしいのか想像し、伝え方を提案できるようにしたいと思っている。…が、難しい。</li> <li>・児童が興味を持って持続的に取り組む内容。</li> <li>・児童が必要だと感じ、楽しんで取り組める内容にすること。</li> <li>・子どもの得意、好きな事を取り込んで、活動に活かす。</li> <li>・児童の興味関心になるべく沿うようにしている。</li> <li>・児童の興味・関心のある事象の把握。</li> <li>・一人ひとりの児童の強みや興味をもとにすることを意識している。楽しみながら力をつけるという基本を忘れないようにしたい。</li> <li>・児童の動機づけを大事にしています</li> <li>・一人ひとりが楽しみながら活動できるものを考える。</li> <li>・子どもが直面している課題を教師とともに把握すること。「できること」から始め「あたりまえ」を大切に気づき、周りの子との関わりの中で、適切に評価していく。</li> <li>・子どもの実態（興味関心）に応じて、活動内容を考えている。また、その日その日で違う子どもの気持ちに寄り添うことを大切にしていこうと心掛けている。</li> <li>・学習者の興味関心。</li> <li>・生徒のやる気を上げたり、維持させ続けたりすること。</li> <li>・生徒の困りを自分から表出できるように、面談や活動を仕組んでいる。新しく学校が変わると、生徒と関係を築くまで時間がかかり、なかなか指導までいきにくい。</li> <li>・自立活動の本を読むがその通りやっても、子どもがのってこないもので、どうすれば活動してくれるか工夫がある。うまくいかないことは多い。</li> <li>・同じ教材であったとしても、子ども一人ひとりの実態に応じて、支援方法を細かく変え、スモールステップで指導することを心がけている。</li> <li>・野菜作りをして、出来上がった作物で簡単な調理をして食べている。</li> <li>・4月は担任との人間関係作りに力を入れた。次に、同じ学級との子どもとの関係を密にした。</li> <li>・自立活動の時間の確保。</li> </ul>
授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の学習時間の始めにコグトレや簡単な耳など、ビジョントレーニング等短時間で楽しく活動できる内容を取り入れるようにしている。</li> <li>・毎時間、ショート自立活動を取り入れ、学習意欲につなげたり、日常的・継続的に育てたい力を伸ばしたりできるように心がけている。</li> <li>・教科の学習の中の10分くらいを手指の細かい運動や体の運動等をしている。</li> <li>・集中が続くやすいように短いスパンでの活動を取り入れる。</li> <li>・特別支援学級で指導する時間が、主に、国語と算数の時間で、その他の時間は「交流および共同学習」として交流学級での授業に参加し、支援に入る形を取っている。そのため、国語・算数の時間数の中で、生活単元学習、自立活動の時間を捻出し、学習を行っている。そのため、10又は15分ずつのコマ時間を毎日少しずつ行うという形態をとっている。</li> <li>・日常的に、授業の中に小さい自立活動を組み込む。</li> <li>・個人のことは帯の時間や授業前数分間を使って行い、人と関わってすることは1時間をとって行う。</li> </ul>
教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組めるような教材、教具を準備する。</li> <li>・子どもの興味をひく教材選び。</li> <li>・パーティーを自主製作したり、更衣、スヌーズコーナーを作ったりして安心できる環境を整えようとしている。</li> </ul>

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を探してプリントすることがあるが、子どもにぴったり合わないで、量や表現を修正したりプリントを詳しくしたりしているが難しい。</li> <li>・教材の工夫をしている。</li> <li>・教材づくり。</li> <li>・教具をつくる。</li> <li>・日常での課題を解決するための教材作り。</li> <li>・子どもの実態や思い、願いに即した学習課題の設定。</li> <li>・教材の開発。</li> <li>・その時の困りを題材にする。</li> <li>・なんのためにこの活動をするか、意識するようにしている。</li> <li>・実態に合わせた教材、教具を準備すること。</li> <li>・児童が興味関心を持てる教材教具の工夫。</li> <li>・個別の課題を教材化すること。生活に返すこと。</li> <li>・自費で教材、教具を購入している。</li> <li>・児童の実態と目標をもとに、それに対応した教材・教具を探し、実践を積み重ねる。</li> <li>・児童一人ひとりの課題に合った教材探し。工夫。</li> <li>・子どもの興味があるものを教材に取り入れている。</li> <li>・市販の SST 事例集や教材を個々の実態に応じて改良して活用している。</li> <li>・児童が集中できる内容、教材。</li> <li>・児童の困りがある場合には、教材の内容を変えたりしている。</li> <li>・児童が興味を持てる活動を考えて教材教具を準備すること。</li> <li>・全体または個別にできることを生活に活かせるような教材教具を用いる。</li> <li>・対象の児童に実際に起きた内容を題材にして、授業を行っている。</li> <li>・児童の実態に合わせた指導、興味のある教材にする。</li> </ul>
指導目標 や内容、 方法の評 価、改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童の実態の把握を丁寧にし、その子に合わせた指導ができていないかを定期的に検証している。効果的なのかそうでないのかを見極め児童の意思も尊重しつつ取り組むようにしている。</li> <li>・学期に一回、交流学級担任と支援員とともに、毎学期の指導計画の目標や手立てに関わる話し合いを持っている。</li> <li>・夏季休業中に、児童の実態を見直し、自立活動の流れ図を作成し、2学期以降の自立活動の時間の充実に活かすように努めている。</li> <li>・まずは取り組んでみて、その子に適した教材か内容かやってみて改善していった。</li> <li>・できる限り、授業の中での反応を観察すること。</li> </ul>
児童生徒 の達成 感、充実 感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりができるようになったと実感できる指導や内容を心がけている。</li> <li>・ステップを積み重ねるごとに、誉めるようにしています。</li> <li>・生徒と一緒に活動を考え、楽しめるようにしています。</li> <li>・ふりかえりに、楽しかった、という言葉が聞ける授業。</li> <li>・子どもが、「困っていることが減った」「できるようになってうれしい」と感じられるものにしたいたいと思いつながりながらやっている。</li> <li>・各自発言の時間を設けること、ふりかえりの時間をとること。</li> <li>・楽しく活動すること、失敗した経験を次回に生かして成功体験で活動を終わることを大事にしている。</li> <li>・否定しないこと。</li> <li>・子どもたち一人ひとりのがんばりを認め、言葉にして子どもたち一人ひとりに返し、次回の励みになるよう心掛けている。</li> <li>・5人全員の存在感。5人全員が揃ったときの喜びを共有することを大事にしている。</li> <li>・それぞれが、達成感を感じられるような内容を工夫すること。</li> <li>・それぞれの成長や頑張りを認め合うこと。</li> </ul>
個に応じた指導、その子の特性に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりに合う自立活動ができれば良いと思う。</li> <li>・一人一人にあった指導を心掛けている。</li> <li>・行動やしよとしたことをほめるようにしているが、一人ひとり違うので、どのようなほめ方が良いのか、常に考えている。不安な事や困ったことは事前に聞き、本番、安心して取り組めるように事前に練習している。</li> <li>・児童の性格や趣味嗜好をキャッチし関わりを持つ。</li> </ul>



## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その子に合った活動を考えている。</li> <li>・児童一人一人の特性に合わせた指導を大事にしていきたいです。</li> <li>・個別の課題を考えながら、取り組むこと。</li> <li>・本人の情緒の安定。</li> <li>・心理的な安定を図ること。</li> <li>・子どもの発達段階を考慮し、個性を伸ばす支援をすること。</li> <li>・工夫していることは、聴覚優位なのか視覚優位なのか観察し手立てを考える。大事にしていることは本人の好きなことや苦手なことは尋ねるようにしている。</li> <li>・それぞれの児童の困りを把握し、個に応じた困りに対して改善できるよう支援を行うこと。</li> <li>・児童が得意なことを伸ばせるように、また困りを軽減できるように配慮・工夫をしている。</li> <li>・子どもの心がリラックスすることを大切にしている。</li> <li>・個々に応じたことと、集団で人間関係を育む場面と週に1回ずつ行っています。</li> <li>・複数人で行うことがほとんどなので、同じ課題でも個に応じた支援を行うように心がけています。</li> <li>・一人一人に合った効果的な支援を心がけている。</li> <li>・児童一人ひとりにあった指導法の工夫。</li> <li>・できないことが一人一人違うので、個別に声掛けを少し変えています。</li> <li>・一人の一人の子どもに合わせられるように、心がけている。</li> <li>・児童の実態に合わせた個別の指導。</li> <li>・その子その子に必要な活動となったか、気をつけている。</li> </ul>
生活への 般化（汎 化）、教育 活動全体 での指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活に活かすことができることを考えている。</li> <li>・日常生活に直結できる一工夫を考える事。</li> <li>・行事とつなげること。</li> <li>・工夫や大事にしていることではないが、交流学級で自立活動ができたらいののと思うことがある。</li> <li>・日常生活に生かせるような内容を指導している。</li> <li>・日常生活に活かせるような指導内容を心がけている。</li> <li>・自立活動の時間内だけでなくその他の授業でも取り扱うことで、トレーニング等に対する負担や拒否感を減らしている。</li> <li>・自立活動の時間の指導が持っていないことをマイナスに捉えず、教科学習の中で、見通しを持ってるように視覚支援をしたり、休み時間や朝の時間を使って、1対1でかかわれる時間を持つようにしたりしています。特に、心理的な安定やコミュニケーションの内容については、全ての児童に大切にしています。</li> <li>・児童の自立（生活への般化）に向けて教師の支援が次第に減らしていけるように支援方法のステップアップを見通して考え実践すること、児童の人権尊重に配慮できる感覚の錬磨。</li> <li>・学んだ内容を日常生活に生かすことができるよう交流学級の担任と連携すること</li> </ul>
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段と違った小さな変化を見逃さないこと。</li> <li>・自分だけの見取りだけでなく、他教科の教員から困りや課題を聞いていかす。</li> <li>・該当児童の特性を十分把握し、困りを理解するようにしている。できる限り成功体験ができるようにしている。</li> <li>・生徒の実態把握に努める。自分の困りを理解させる。</li> <li>・児童の実態把握。</li> <li>・本人の一番の困りを読み取り、その内容を少しでも解決できる手助けをしたいと考えています。</li> <li>・子どもの実態把握に努めています。</li> <li>・児童の実態から出発すること。</li> <li>・本人の観察。</li> <li>・学校生活全体（部活動を含む）での困りを把握すること。</li> <li>・児童の実態に合った活動を行うこと。</li> <li>・児童の実態把握、児童や保護者の思い、児童の将来を考えた時に今必要な力。</li> <li>・児童一人一人の実態を把握すること。</li> <li>・実態把握を大事にしています。</li> <li>・個人の困りを減らせるよう、個人をよく観察すること。</li> <li>・生徒理解を深くすることに気をつけています。</li> <li>・生活の様子や保護者から家の様子を聞き取り、必要な活動を考えながら行っている。</li> <li>・児童の実態把握のために児童に関わる教職員で情報を共有する。</li> </ul>

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の困りを、把握すること。</li> <li>・毎日毎回の関わりの中から、実態把握をすること。</li> <li>・教師の思い込みにならないように児童の実態把握を常に心がけている。</li> <li>・生徒をよく観察し、生徒の実生活や将来の困りの解消や緩和につながるよう意識している。</li> </ul>
授業の形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の支援学級とも、合同の自立活動を行う。</li> <li>・内容によっては学年ごとで行なったりしている。</li> <li>・同学級の仲間全員が集まれる機会を作ることを意識して取り組んでいます。</li> <li>・コミュニケーションの領域の学習を充実させたいので、複数の児童と一緒に学習できるように時間割の変更等を交流学級の担任にお願いしている。</li> <li>・少人数グループでの実施。</li> <li>・一人ひとりに関われる時間を週1は確保するようにしている。</li> <li>・支援学級3クラス合同で自立活動を考え、内容に応じて全員や小グループ、個別で実施している。1人ですよりは教師が3人いるので分担してやりやすく効果的だと感じている。</li> <li>・個別の時間の確保。</li> <li>・個別も大事だが、集団の中で自分でできることを増やしてあげたいと思っているので、グループでの活動を多くしている。</li> </ul>
児童生徒の思い、対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく話し進めるようにする。</li> <li>・本人と対話しながら目標を決める。</li> <li>・生徒と話す。</li> <li>・本人の思いを大事にしている。</li> <li>・本人の意向。</li> <li>・生徒とよく話す。</li> <li>・生徒の話聞く。</li> <li>・子どもの表情を見ること。</li> <li>・友だちとの関わりの中で、子どもの様子や困りを早く気づくために、日々子どもと話しをしている。(朝は、1日の流れの確認をすることで、安心して1日を過ごすことができるようにする。また、帰りは、1日の振り返りをするので、様子を観察する。)</li> <li>・子どもの思いや考えをしっかりと聞くこと。</li> <li>・大切にしていることは、まずは子どもたちの意思をきき、その子にあった指導をすることです。</li> <li>・対話を心がけ、本人の本当の気持ちや考えを引き出すように気を付けている。こちらがさせる自立活動にならないように気を付けている。</li> <li>・生徒本人のそれぞれの困りを聞きやすい雰囲気づくりをしている。</li> <li>・本人の意思を尊重している。苦手に感じないような内容や声かけ。</li> <li>・とにかく話を聞く。子どもたちと話している中で、困っていることは何かがわかる。そうすると、こんな方法があると工夫することができる。だから、とにかく話を聞くことを大事にしています。</li> </ul>
その日の状況に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心理状態にあわせて実施する。</li> <li>・生徒の状態に合わせた活動をする。</li> <li>・児童の気分で臨機応変に変更をする。</li> <li>・その時の生徒の様子により、内容を臨機応変に変えている。</li> <li>・子どもの実態やその時の気持ちを見て指導するようにしている。</li> </ul>
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おうちの方の願いを大事にしている。友だちとの関わりを大事にしている。</li> <li>・保護者との話し合い。こちらの一方向的な指導にならないように気を付けています。</li> <li>・保護者におうちでの様子を聞いたり、学校で効果的なものを知らせたりして、共通理解しながら行っている。</li> <li>・家庭との連携。</li> <li>・毎日の児童の様子を連絡し、保護者と密に連携しながら指導に生かしている。</li> <li>・日々の記録、保護者との連絡等。</li> <li>・保護者との情報共有をし、その子にあった指導をいっていく。</li> <li>・生徒や保護者のニーズをつかむこと。</li> <li>・家庭と連携しながら進めている。</li> <li>・保護者との連携。</li> <li>・保護者との連携、保護者への支援。</li> <li>・家庭での生活リズム等、見えない部分があるので、連絡帳で保護者とやりとりをしている。</li> </ul>

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の願いと本人の願いをそれぞれ確認し、方向性を示すようにしている。</li> <li>・保護者と相談しながら、身につけてほしいこと等を確認しながら、指導を行っている。</li> <li>・本人や保護者の思い。</li> <li>・よく生徒コミュニケーションをとるようにしたり、保護者連絡を密にしたりして、信頼関係を構築することを大事にしている。</li> <li>・家庭との連絡を密に取りながら、指導していく。</li> <li>・保護者や交流学級担任等と話し合い、実態把握に努める。</li> <li>・保護者や交流学級の担任と連絡を密に取り合ったり、本人と話をしたりして、本人の今の困りを把握している。そして、効果的な指導支援ができるよう心がけている。</li> <li>・各個人の困りに合った内容を提供できるよう常に保護者と連携している。</li> <li>・保護者との連携、生徒個人が感じている困難さを聞き取ること。本人ができた実感できるように取り組むこと。</li> <li>・困りやできるようになってほしいこと、できるようになりたいことを、本人、保護者、交流学級担任等と話をし情報共有をすること。</li> </ul>
教師間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部や各教科担任をはじめ、関わりのあるすべての教職員と情報交換や連携、コミュニケーションを密にして取り組んでいくこと。</li> <li>・ケース会議で先生たちとたくさん意見交換をすること。</li> <li>・周りの先生方の実践を参考にしています。</li> <li>・日常から子どもとかかわりのある職員と話し、子どもの様子を聞いている。</li> <li>・交流学級の担任と相談しながら、児童の状況を把握するように心がけている。</li> <li>・児童ひとりひとりの困りに寄り添い、校内で情報を共有し、即時に対応、指導していくように心がけている。</li> <li>・交流学級担任との情報交換。</li> <li>・スクールサポーターの先生や他の手のすいている先生方に協力を頼み、複数体制で指導をなるべく行うようにしている。</li> <li>・児童の交流学級での様子や支援学級担任以外の教職員との関わり方の様子の情報をできるだけ集めるようにしている。</li> <li>・手が空いている先生にご協力をお願いしている。目当てだと振り返りを必ず行っている。</li> <li>・先輩の先生方にどのような活動を仕組んでいけばいいか相談しながら実践に取り組んでいる。</li> <li>・交流学級の担任や支援員との連携、家庭のつながり。</li> <li>・日頃から支援員や担任、教科担当に予想される困りを伝え、授業中の本人の困りを改善できるように話していること。</li> <li>・交流学級の担任とも連携して交流、支援、家庭の風通しを良くして、児童に返していけるようにしている。</li> <li>・本人の状況を把握するために、交流学級担任や保護者との連携をとる。</li> <li>・実践例を調べたり、前担任から様子を聞いたりすること。</li> <li>・子ども一人ひとりの苦手なことや特性をつかんだ上で、他の先生に、自立活動でどんなことをしているのかを尋ねるようにしている。</li> </ul>
他機関等との連携・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材の活用。</li> <li>・支援学校の先生に相談する。</li> <li>・児童の中学校進学を視野に入れて、必要な力や見通しを持たせることを大切にしている。今年度は、中学校の支援学級の学習に参加させてもらう機会を作り、保護者にも参観してもらう取り組みを計画して（生活単元学習で）総合的に充実を図っている。</li> <li>・交流学級の担任や保護者、福祉機関等児童に関わっている方と情報交換を行う。</li> <li>・時間があるときに、介護施設やPT等のSNSをチェックすることもある。</li> <li>・保護者を通して、療育機関の自立活動の指導の方針を参考にしている。</li> <li>・ドクターや作業療法士の方、巡回訪問に来てくださる特別支援学校の先生に相談したり助言をいただいたりしている。児童の交流学級会や学校行事での様子も観察し、課題を見つけ、設定するように工夫している。また、今後の生活（大人になっても）に活かせる力をつけることを大切にしている。</li> <li>・専門機関と繋がり情報共有する、子どもの困りを複数教員で確認する。</li> </ul>
教員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍を読む、研修会に参加する。</li> <li>・色々な会議やPC上にある紹介や教科書を見て参考にする。</li> <li>・色々な資料から参考になりそうなものを探している。</li> </ul>

## 【別添資料】小・中学校特別支援学級における自立活動に関するアンケート調査及び回答結果

	<ul style="list-style-type: none"><li>・本を読んで自分で勉強する。</li><li>・事例集等を参考にしている。保護者からの聞き取りでどの項目について重点的に取り組むかを考えている。</li><li>・夏季の研修に幾つか参加することで、児童に対しての接し方のスキルを学ぶことができた。実際に試しながら、児童に合った対応の仕方を探っている。1番にしっかり観察を行い、求めるもの、困っている事等を知り、少しでも生きやすくなる対応策と一緒に考えていきたい。</li><li>・どんな活動を取り入れたら良いか悩むので、書籍や実践記録を参考にしている。</li><li>・市販の教育書等を購入して参考にしている。</li></ul>
--	--